

～糖尿病治療薬GLP-1受容体作動薬について～

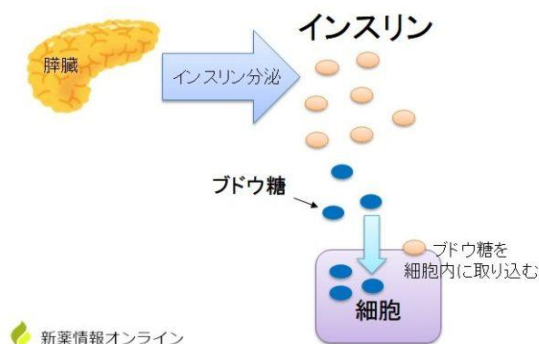
糖尿病とは、血糖値が慢性的に高くなる疾患です。

本来、血糖値は**インスリン**というホルモンの働きによって適切にコントロールされていますが、糖尿病になるとこの働きがうまくいかなくなり、全身の血管や神経にさまざまな悪影響を及ぼします。

◆インスリンの働き

膵臓から分泌された**インスリン**が、細胞に作用してブドウ糖を細胞内に取り込む

→血糖値が**低下**する



今回は、2型糖尿病治療薬の中でも、比較的新しい**GLP-1受容体作用薬**について説明します。

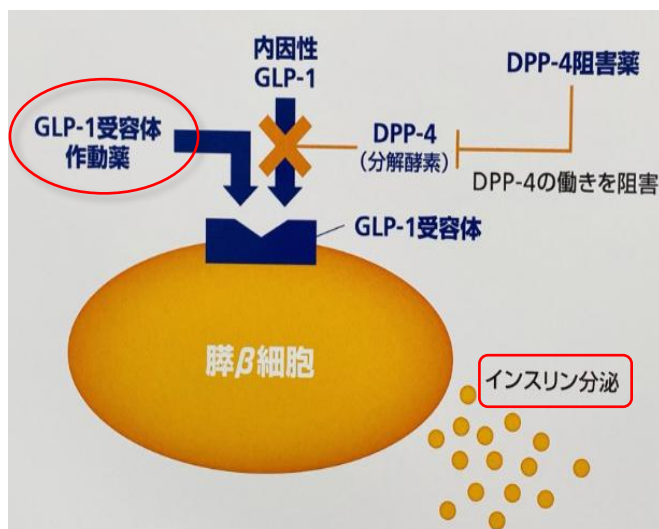
GLP-1とは、インクレチンと呼ばれるホルモンの一つです。

◆GLP-1が血糖値を下げる機序

GLP-1が膵臓のβ細胞上のGLP-1受容体に結合

血糖依存的に**インスリン**分泌を**促進**
膵α細胞からの**グルカゴン**(血糖を上昇させる生体内物質)の分泌を**抑制**

↓
血糖値が**下がる**



→**GLP-1受容体作動薬**は、内因性のGLP-1と同じように、膵β細胞上のGLP-1受容体に結合し、**インスリン**分泌を**促進**することによって、血糖値を**下げる**働きがあります。

◆GLP-1受容体作動薬の薬剤一覧

院内採用の薬剤は赤字(*は患者限定採用薬剤)で記載しています。

製品名	一般名	用量	用法
ビクトーザ皮下注* 注1)	リラグルチド	1日 0.3-0.9mg	1日1回皮下注
バイエッタ皮下注	エキセナチド	1日2回 10-20 μ g	1日2回皮下注 朝・夕食前 (60分以内)
リクスミア皮下注	リキシセナチド	1日 10-20 μ g	1日1回皮下注 朝食前(60分以内)
トルシティ皮下注	デュラグルチド	1週間 0.75mg	1週間1回皮下注
オゼンピック皮下注*	セマグルチド	1週間 0.25-1mg	1週間1回皮下注
リベルサス錠	セマグルチド	開始：3mg 維持：7mg 効果不十分： 14mg	1日1回経口投与 1日の最初の食事の前に服用、服用時・服用後30分は飲食、他の薬剤の服用を避ける
マンジャロ皮下注	チルゼパチド	開始：2.5mg 維持：5mg 効果不十分： 15mgまで増量可	1週間1回皮下注
ゾルトファイ 配合注*	・インスリン デグルデク ・リラグルチド	1日10～50ドーズ 注2)	1日1回
ソリクア配合注	・インスリン グラルギン ・リキシセナチド	1日5～20ドーズ	1日1回 (朝食前1時間以内)

注1) ビクトーザ皮下注は2026年後半に製造販売中止の予定です。

注2) 1ドーズ=インスリンデグルデク1単位+リラグルチド0.036mg

注3) 1ドーズ=インスリングラルギン1単位+リキシナチド1 μ g

参考文献：糖尿病とは？症状・原因・種類・合併症を分かりやすく解説まめクリニック

セマグルチド〈リベルサス錠〉発売！経口GLP-1作動薬。特徴や薬価

Apple製品を愛する薬剤師しぐのお勉強ブログ

【糖尿病】GLP-1受容体作動薬の作用機序と一覧まとめ パスメド -PASS MED-

今日の治療薬

(薬剤部 上野)